



2月 TMS食堂



2月は節分の日にまき寿司を提供いたしました。
 そのままほうばるように食べる姿がなんともいえませんでした。
 今年は、北北西をむいて食べておられたようですがお話は盛り上がっておりました。食事中はやっぱりお話ししながら食べた方がおいしいですね。それにしても皆さん、切ったほうが食べやすいから切って一とおっしゃいました。
 一見節分には当たり前と思われるまき寿司の丸かじり。しかしみなさんの反応は、ただただまき寿司がおいしくて大好きだということでした。



- ・太巻き
- ・いんげんの胡麻和え
- ・煮豆
- ・お吸い物



日本でまき寿司が食べられるようになったルーツって？

大阪を中心に「節分の日はその年の恵方に向けて無言で壱本の巻寿司を丸かぶりすれば其年は幸運に恵まれる」と言い伝えられ、遅くとも昭和7年ころには大阪の一部地域において、節分に恵方に向けて巻き寿司を丸かぶりする風習が行われるようになったそうです。

昭和64年(1989)広島県内のセブン-イレブン一部店舗で、丸かぶりする「巻寿司」が縁起の良い節分の風習として紹介されました。

加盟店のオーナーが大阪出身で、「大阪では節分に巻きずしを丸かぶりして幸運を祈る風習がある」とエリアマネージャーに話したのがきっかけでプロモーションがうまれたそうです。

「恵方巻き」の商品名で全国的に売られ始めたのもこれが始まりです。コンビニやスーパーで売られている「恵方巻き」の直接のルーツはセブンイレブンだったというわけです。



そんなこんなで、今こそ当たり前ですが、皆さんにとっては親しみのあるものではなく企業戦略のひとつであったことが文化になりつつあるのです。給食にそんな現代の行事を取り入れることも社会とのつながりのひとつになるといいなと感じます。